

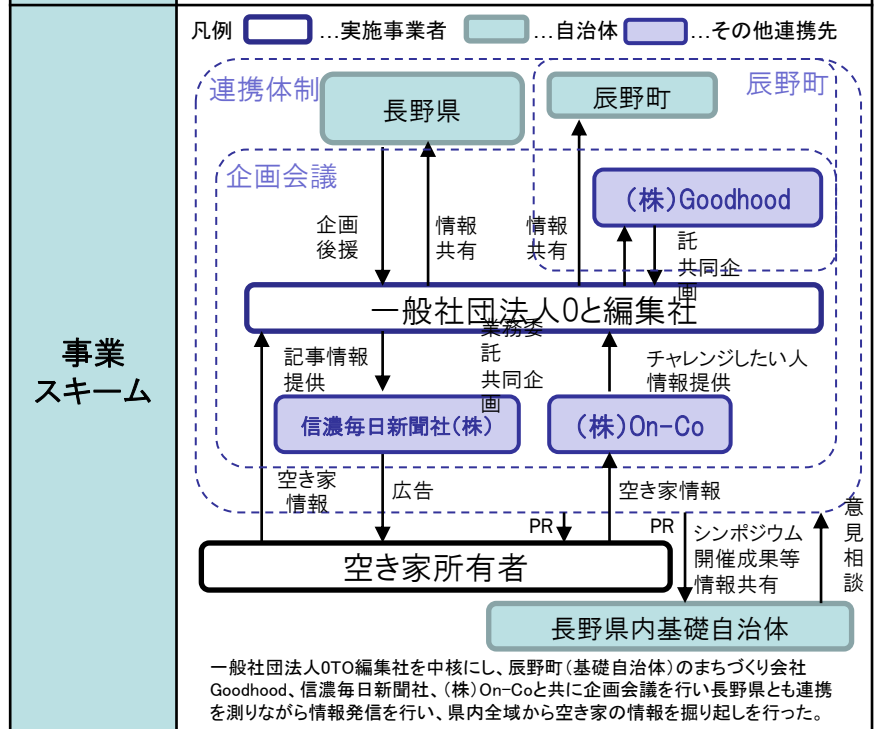
# 一般社団法人Oと編集社

**事業概要** ローカルメディア(新聞)の広告欄を活用して戦略的に、空き家を活用してチャレンジしたい人、移住希望者、それに関わる人等の情報発信を行い、空き家のオーナーに多い高齢者の方へアナログの紙面によりアプローチし、県内全域からの空き家の掘り起こしを行うと共に、地域の空き家に関わる人と情報の共有とネットワークづくりを行うためのシンポジウムを開催しました。

## 事業者情報

団体名	一般社団法人Oと編集社
所在地	長野県上伊那郡辰野町大字辰野1705-1
設立時期	2018年10月10日
団体HP	https://maruto.or.jp/

**活動地域** 長野県全域・長野県辰野町



## 取組内容及び成果

- ①ローカル紙を利用した定期的な情報発信
- ・高齢者の読者が多い長野県トップシェアを持つローカル紙と共に、人や現象を掲載することで空き家を掘り起こしを行った。
  - ・さかさま不動産と連携し、長野県エリアを含むチャレンジしたい人のヒアリングを行い、さかさま不動産へ掲載と合わせて、新聞広告を行った。
  - ・信濃毎日新聞の県内全域に掲載されるページの下部の広告として2枠を使って長野県全域に1回目の掲載を行なった。
  - ・2枠は、長野県の目指しているビジョンにある「若者と女性に選ばれる県」にも紐付けて、若者で女性の2人を掲載。
  - ・タイミングは、お正月に親族が集まることを狙って2023/12/31に掲載。
  - ・情報收拾の方法は、電話・FAX・メール・ラインなど複数用意。

- 1・2枠の成果
- ・空き家等オーナー問合せ件数: 6件(電話3件、メール(SNS含む)3件)
  - ・(長野市1件、松本市1件、岡谷市1件、伊那市1件、塩尻市1件、辰野町1件)

空き家の掘り起こしに適したエリア・内容の傾向を分析すると、店舗、空き店舗、店舗兼住宅のような、事業・商業ができるような場所・建物の仕様となっていた。

- 1・2枠の分析
- ・チャレンジしたい人の掲載を行なったため、空き家・空き店舗等のオーナーが自らできそうかどうか検討した上で連絡をしてくれているので、一般住宅で空き家を持っているオーナーは自らバイアスをかけてしまい、連絡をもらえていないと考察しています。



さかさま不動産 オンラインヒアリング



信濃毎日新聞2面下部広告

**事業概要** ローカルメディア(新聞)の広告欄を活用して戦略的に、空き家を活用してチャレンジしたい人、移住希望者、それに関わる人等の情報発信を行い、空き家のオーナーに多い高齢者の方へアナログの紙面によりアプローチし、県内全域からの空き家の掘り起こしを行うと共に、地域の空き家に関わる人と情報の共有とネットワークづくりを行うためのシンポジウムを開催しました。

## 取組内容及び成果

- 2024/2/17に3・4枠目を使って第2回目掲載を予定
- 仮説
  - 一般住宅の空き家のオーナーが、自らの空き家を使って地域で素敵な現象を作ることができると思ってもらえるようなマインドになってもらうことで、秋や情報の掘り起こしができるのではという仮説
- 方法
  - ・信濃毎日新聞の県内全域に掲載されるページの下部の広告として2枠を使って長野県全域に掲載を行なう。
  - ・情報収拾の方法は、電話・FAX・メール・ラインなど複数用意。
- 3・4枠の内容
  - ・掲載内容を、家族で4人で空き家バンクで実際にマッチングした事例を掲載。
  - ・一般的に地域で求められている子育て世代の家族の実際の姿を掲載。
  - ・実際に空き家のオーナー、地域と素敵な関係を作っている現象を掲載。
- 3・4枠の目指したい成果
  - ・一般住宅の空き家オーナーからの情報提供
- 2024/02/末に5枠目を使って、3回目掲載を予定
- 仮説
  - ・情報エリアと空き家等オーナーの距離が全県より近い方が、掘り起こしができるのではという仮説
- 方法
  - ・信濃毎日新聞社のエリア支局が発行しているエリア版タブロイド紙へ広告として掲載(松本エリア、上伊那エリア:全県で6エリアとなるうちの2エリア)
- 5枠の内容
  - ・チャレンジしたい人、移住の物語(一般的な家族)を掲載。
- 5枠の目指したい成果
  - ・3・4回目と5回目どちらが、情報の掘り起こし(連絡数)がされるか。

## 取組内容及び成果

- その他成果
  - ・信濃毎日新聞社が独自で新聞広告共通調査(J-MONITOR)も合わせて行い、広告として良い広告であると多くの回答を頂いた。
  - ・実際に問い合わせを頂いた空き家等の現地に伺い、現地確認および本プロジェクトに関するヒアリングなどを行わせて頂き、様々パターンでの検証に生かしていくことができています。



- ②人から空き家にアプローチする仕組みと関わる人のネットワークづくりシンポジウム
- 内容
  - ・空き家の掘り起こしに関する様々な取り組みや、人や現象を元に掘り起こしがされるカラクリを考えの共有を行う。
  - ・長野県地方都市の松本市と長野市の2会場で行い、県内に広くこの事業を広く周知した。
- 成果
  - 1回目のシンポジウムは、参加者約40名(2023/12/4実施) 広告掲載者となる何かやりたい人も会場の中から発掘。空き家の活動に取り組む関係者のつながりが生まれ、地域ごとで違う事情を把握できた。
  - 2回目のシンポジウムを2024/02/19に予定。掘り起こしの先について、仮説を作る予定。